

# I 事業報告書

## 1. 一般概況

### (1) とうもろこしの国際需給の動向

2012/13年度については、世界全体の生産量は、価格上昇による作付意欲の向上により世界的に作付面積が増加し、中国、アルゼンチンで史上最高となるものの、米国やEUで高温、乾燥により大幅に減産となることから、世界全体では対前年比3.0%減の8億5,592万トンと見込まれている。消費量は、中国、ブラジル等で需要が増加するものの、米国では価格上昇に伴いバイオエタノール向け需要、輸出用需要は双方とも減少する見込みとなっており、世界全体では対前年比1.9%減の8億6,251万トンと見込まれている。この結果、期末在庫量は対前年比5.0%減の1億2,529万トンで、期末在庫率は前年度を0.5ポイント下回る14.5%と見込まれている。

米国については、作付面積は価格上昇により対前年比5.8%増の3,934万ha、単収は、6月～7月にかけてコーンベルトで高温乾燥となり、受粉に影響があったとみられることから対前年比16.2%減の7.7トン/haとなった結果、生産量は対前年比12.8%減の2億7,382万トンと見込まれている。需要量は、燃料用エタノール向け需要及び輸出の減少により、対前年比11.1%減の2億8,289万トンと見込まれている。この結果、期末在庫量は対前年比23.5%減の1,923万トン、期末在庫率は前年度を1.1ポイント下回る6.8%と見込まれている。

### (2) 国内の配合飼料生産の動向

平成23年度の配合・混合飼料生産量は、2,418万トン、対前年比98.8%となった。このうち配合飼料の生産量は、2,381万トン、対前年比99.1%となっており、畜種別の内訳では養鶏用、養豚用、乳用牛及び肉牛用のいずれも減少した。

平成24年度の配合・混合飼料生産量は、2,407万トン、対前年比99.6%となった。このうち配合飼料の生産量は、2,369万トン、対前年比99.5%となっており、畜種別の内訳では、乳牛用が100.2%、肉牛用が100.3%と増加したものの、養鶏用が98.6%、養豚用が99.9%と減少した。

### (3) 価格の動向

#### ア とうもろこしのシカゴ相場

とうもろこしのシカゴ相場については、平成24年1月以降、6ドル/ブッシェル台半ばで推移したものの、4月半ば以降、米国の作付面積が大幅に増加すると見込まれたことから、値を下げた。しかし、6月末以降、米国コーンベルトでの受粉期を通じた高温、乾燥による作柄への影響から値を上げ、7月20日に825セント/ブッシェルと史上最高値を更新し、8月21日には831セント/ブッシェルと再度史上最高値を更新した。

9月以降、米国産の収穫進展や高値による輸出需要の不振等から7ドル/ブッシェル台半ばに値を下げ、更に12月半ば以降、南米の天候回復や米国の輸出不振等から7ドル/ブッシェルを割り込んだ。

25年1月以降、米国の飼料用需要やエタノール生産の増加、アルゼンチンの高温、乾燥の天候等から値を戻し、7ドル/ブッシェル前半で推移した。

## イ FOB プレミアム

とうもろこしの FOB プレミアムについては、平成 24 年以降、輸出需要の増加を見込んで、農家売りが少ないことから 240 セント/ブッシェルを超える水準で推移してきた。しかし、夏場に入ってから、早魃の影響により、リバー水位が低下し、バージ積載量の規制によるリバーエレベーターの荷役効率低下等から 320 セント/ブッシェルを超える水準となった。秋以降は、米国産から南米産への輸出がシフトされたことから 170 セント/ブッシェル水準をやや下回る水準で推移している。

## ウ フレート

米国ガルフ/日本間の海上運賃は、平成 23 年 4 月から平成 24 年 3 月まで 55 から 45 ドル水準に低下した。その背景は、新造船の就航による船腹供給の増加、中国向け船舶需要の減少、欧州債務危機による世界経済の先行き不透明感からであるが、平成 24 年 4 月以降は南米産穀物の中国向け輸送需要が増加したこと等により一時 55 ドルを超える水準まで上昇した。直近では、依然世界経済の景気の減速による海上輸送の減少により船舶が緩和していることから、50 ドルを下回る水準で推移している。

## エ 為替レート

欧州経済の先行き懸念等を反映して円高基調が続き、平成 23 年 10 月末には 75 円台まで上昇し、24 年度に入っても 1 ドル 80 円前後で推移したが、11 月中旬以降、円安が進展し、25 年 3 月には 95 円前後となった。

## オ 配合飼料

配合飼料価格については、平成 24 年度第 1 四半期は、主原料であるとうもろこしの米国における期末在庫が低水準であることや、南米の高温乾燥懸念により生産量見通しが下方修正されたことからトン当たり 1,141 円引き上げられた。第 2 四半期においても、とうもろこしの国際価格は米国内のエタノール需要が好調なことに加え、米国の天候不良（高温・乾燥）による減産懸念や米国産とうもろこしの中国向けの大口輸出成約等から高騰し、その後、米国農務省の予想を上回る新穀の期末在庫が発表されシカゴ定期は下落したものの、トン当たり 983 円引き上げられた。

第 3 四半期は、米国産とうもろこしは高温乾燥により生産量の減少が懸念されことから、7 月 20 日には、シカゴ定期は史上最高値を更新したこと等から、トン当たり 4,745 円引き上げられた。第 4 四半期は、米国の収穫が比較的順調に進み、期末在庫が上方修正されたこと等からシカゴ定期が下落したものの、外国為替が円安になり原料コストは若干の値上がりとなるが、原料コストの上昇が小幅であるため据え置きとした。

## 2. 業務運営

平成24年度において以下に掲げる事業を実施した。なお、平成24年度においては、会員及び会員からの入会預り金に異動はなかった。平成25年3月31日現在の入会預り金の状況は、次のとおりである。

会 員 別	入会預り金口数	入会預り金額
	口	千円
(独)農畜産業振興機構	8,000	800,000
(社)全国配合飼料供給安定基金	1,268	126,800
(社)全国畜産配合飼料価格安定基金	113	11,300
(社)全日本配合飼料価格・畜産安定基金	1,613	161,300
全国農業協同組合連合会	798	79,800
全国酪農業協同組合連合会	39	3,900
全国畜産農業協同組合連合会	1	100
全国開拓農業協同組合連合会	1	100
日本養鶏農業協同組合連合会	1	100
(協)日本飼料工業会	1,166	116,600
計 10 団 体	13,000	1,300,000

### (1) 配合飼料価格安定対策事業

#### ア 交付契約数量

平成24年度の各契約基金との異常補填交付金交付契約数量は、24,519,093トンであり、基金別では、全国配合飼料供給安定基金6,998,740トン、全国畜産配合飼料価格安定基金1,485,914トン、全日本配合飼料価格・畜産安定基金16,034,439トンであった。

なお、9月に各基金間移動に伴う交付契約数量の変更を行った結果、全国配合飼料供給安定基金6,994,032トン、全国畜産配合飼料価格安定基金1,483,098トン、全日本配合飼料価格・畜産安定基金16,041,961トンとなり、総交付契約数量は24,519,091トンとなった。

#### イ 異常補填準備財産の造成

収入は、前年度から繰り越された異常補填準備財産29,698,444千円に国庫補助金14,800,000千円、民間積立金収入4,850,000千円、利息収入61,089千円、異常補填交付金過払金収入33千円を合わせ合計49,409,566千円となった。

一方、支出は、特別交付金交付事業費560,718千円、事業雑費29千円、合計560,747千円の他、43,428千円を一般勘定へ繰り入れた。

この結果、異常補填準備財産の造成額は、48,805,391千円（各契約基金への貸付金13,959,260千円を含む。）となった。

#### ウ 異常補填交付金交付事務

平成24年度においては、補填の発動がなかったことから、異常補填交付金の交付はなかった。

## エ 配合飼料価格安定基金業務に関する調査等

配合飼料の農家購入価格について、全国 27 道県の畜産経営体等の協力を得て実施した調査の集計、取りまとめを行うとともに、静岡県ほか 2 県で基金業務に係る調査、指導を行った。

### (2) 通常補填財源貸付事業及び特別交付金交付事業

通常補填財源貸付事業においては、4 回（5 月、7 月、10 月、1 月）計 18,000,000 千円を返済し、23 年度と合わせて 54,000,000 千円を返済した。返済期間については、27 年 1 月までで、返済残額は 36,000,000 千円となっている。基金別返済金は次のとおり。

基金別返済金の内訳	24 年度	返済合計額
全国配合飼料供給安定基金	4,929,600 千円	14,788,800 千円
全国畜産配合飼料価格安定基金	1,113,600 千円	3,340,800 千円
全日本配合飼料価格・畜産安定基金	11,956,800 千円	35,870,400 千円

また、特別交付金交付事業においては、全国配合飼料供給安定基金に 153,562 千円、全国畜産配合飼料価格安定基金に 34,690 千円、全日本配合飼料価格・畜産安定基金に 372,466 千円、総額 560,718 千円を特別交付金として交付した。

### (3) 通常補填財源貸付事業

各契約基金が、平成 24 年度第 3 四半期における通常補填を行うための財源の不足を生じたため、機構の異常補填準備財産から不足額を無利子で貸し付けた。

第 3 四半期に各契約基金に貸し付けた総額は、13,959,260 千円であり、基金別では全国配合飼料供給安定基金 2,972,930 千円、全国畜産配合飼料価格安定基金 887,830 千円、全日本配合飼料価格・畜産安定基金 10,098,500 千円であった。

### (4) 飼料穀物備蓄対策事業

#### ア 備蓄実施計画

国の飼料穀物備蓄計画に基づき、四半期ごとに生産局長の承認を得て備蓄実施計画を作成し、飼料穀物保管等事業を実施した。

#### イ 飼料穀物保管等事業

##### (7) 飼料穀物保管等事業の実施

備蓄穀物 350,000 トンの保管について、備蓄実施計画、備蓄穀物保管委託契約に基づき、備蓄受託者 22 者及び営業サイロ等 36 者により備蓄用サイロ 975 千トンを含む所定の保管場所（全国延べ 105 箇所）において適正に保管した。

また、備蓄受託者が確保すべき通常在庫数量については、第 3 四半期及び第 4 四半期は、南米での大豆、とうもろこしの輸出数量の増大による船混み、海上の時化等による本船到着遅延等から一部緩和したものの、ほぼ所要の飼料穀物は確保された。

##### (イ) 備蓄穀物の保管場所の変更、備蓄受託者の変更

① 配合飼料工場を閉鎖した備蓄受託者において、当該工場分の備蓄穀物の保管

場所を石巻から鹿島、玉島から水島へ変更した。

- ② 畜産用飼料の製造を中止するため、備蓄穀物を返還したいとの申し入れがあったので、これを認め、備蓄受託者を変更して保管場所を下関から志布志へ変更した。
- ③ 沖縄の営業サイロが老朽化のために閉鎖されることになったので、当該サイロ分の備蓄穀物の保管場所を沖縄の自社サイロ及び志布志の営業サイロへ変更した。
- ④ 博多の営業サイロで備蓄していた備蓄数量の一部が欠減するという事態が生じたことを踏まえ、今後の再発防止を期する観点から、同サイロにおける備蓄を取り止め、鹿島へ変更したいとの申し入れがあったので、これを認め、保管場所を変更した。

(ウ) 備蓄穀物の貸付け

平成24年4月1日から平成25年3月31日までに備蓄穀物 162,816.7トンの貸付けを実施した。この貸付けは、米国から南米へとうもろこしをシフトしたこと及び南米での中国向け大豆の輸出増による本船船混みに伴う出港遅延及び冬場の荒天による海上の時化等による本船到着遅延によるものである。

(エ) 備蓄穀物の売渡し

備蓄穀物 426,707 トンのうち 76,707 トンを削減するため、平成24年2月及び3月に備蓄受託者を対象として一般競争契約（入札）を実施した。その結果に基づき 76,707 トンの備蓄穀物売買契約を締結した。

平成23年度末までに 26,848 トン、24年4月10日に 49,859 トンを売却し、備蓄穀物は 35 万トンとなった。

(オ) 備蓄穀物の保管委託経費等

平成24年度においても23年度に引き続き、予算措置が講じられていない備蓄穀物 15 万トンの保管委託経費については、備蓄基金を取り崩して備蓄受託者へ支払った。なお、平成24年度補正予算の独立行政法人農畜産業振興機構からの備蓄補助事業として、平成25年2月26日から3月末までの保管経費及び支払利息について補助金を受け備蓄受託者及び銀行に支払った。

(カ) 備蓄基金の造成状況等

収入は、前年度からの繰越金 948,867 千円に加え、補助金収入 62,395 千円、利息収入 884 千円、備蓄穀物貸付料収入 6,929 千円、備蓄穀物売払収入 483,354 千円及びその他の収入として備蓄受託者の倒産（破産手続開始）に伴い、破産債権届けで債権（14,483 千円）、債務（5,873 千円）について相殺通知申請を行い、相殺が認められ、確定債券額（8,610 千円）に対する最後配当 431 千円を受入れた。また、雑収入として備蓄穀物の欠減による違約金 16 千円を受入れ、収入合計 1,502,876 千円となった。

一方支出は、備蓄穀物の保管等の事業に要した経費（確認検定料、支払利息、火災保険料等） 105,804 千円、備蓄穀物保管委託経費のうち機構支払分 845,711

千円、その他の支出として一般勘定への繰入 110 千円となり、本年度末の備蓄基金残額は 551, 251 千円となった。

(キ) 農畜産業備蓄補助事業

収入は補助金収入 107, 120 千円を受け入れた。一方、支出は保管料 103, 629 千円、支払利息 3, 491 千円で支出合計は 107, 120 千円となった。

(5) 調査事業

ア 配合飼料産業調査

配合飼料産業の生産流通に関する基礎的なデータを整備するため、配合飼料企業及び工場における生産・流通・販売・受委託・研究開発などの現状を調査した。

イ 流通飼料生産流通価格等調査

飼料製造工場を対象に、飼料生産・出荷・在庫動向、工場渡価格、原料使用量、都道府県別生産量、都道府県別出荷先別出荷量等を毎月調査し、飼料月報を作成するための基本的な資料として使用した。

(6) 業務に関する広報、調査活動その他

ア 飼料に関する資料等の収集

イ 飼料月報 4 月～3 月号の発行

ウ ホームページによる情報開示

(7) 公益社団法人への移行

平成 24 年 10 月 11 日、公益移行認定申請を行い、平成 25 年 3 月 19 日、内閣総理大臣から移行認定を受けた。これを受け、平成 25 年 4 月 1 日、公益社団法人の設立登記を行った。

### 3. 会議の開催

(1) 総会

- |   |            |   |
|---|------------|---|
| ア | 第 38 回通常総会 | 平成 24 年 6 月 15 日開催                      |
|   | 第 1 号議案    | 平成 23 年度事業報告及び収支決算について                  |
|   | 第 2 号議案    | 会計処理規程変更の適用延期に伴う平成 24 年度収支予算の組替について     |
|   | 第 3 号議案    | 役員補選について                                |
|   | 第 4 号議案    | 業務方法書の一部変更について                          |
| イ | 臨時総会       | 平成 24 年 10 月 10 日開催                     |
|   | 第 1 号議案    | 公益社団法人への移行認定申請書について                     |
|   | 第 2 号議案    | 公益社団法人配合飼料供給安定機構定款について                  |
|   | 第 3 号議案    | 公益社団法人への移行認定申請に係る平成 25 年度事業計画及び収支予算について |
|   | 第 4 号議案    | 公益社団法人配合飼料供給安定機構に移行後最初の役員につ             |

いて

第5号議案 公益社団法人配合飼料供給安定機構役員の報酬等の支給に関する基準について

ウ 臨時総会 平成24年12月19日開催  
第1号議案 平成24年度事業計画及び収支予算の変更について  
第2号議案 定款の一部変更について  
第3号議案 業務方法書の一部変更及び通常補填財源貸付事業に関する業務方法書の制定について

エ 臨時総会 平成25年3月14日開催  
第1号議案 平成24年度事業計画及び収支予算の変更について  
第2号議案 平成25年度事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みについて  
第3号議案 定款の一部変更について  
第4号議案 業務方法書の一部変更及び通常補填財源貸付に係る業務方法書の制定について  
第5号議案 業務方法書における社団法人の名称変更等に関する規程の制定について  
第6号議案 理事の報酬総額及び監事の報酬総額について  
第7号議案 役員給与規程、役員退職手当支給規程及び非常勤役員交通費支給基準について

## (2) 理事会

ア 第224回理事会 平成24年6月15日開催  
第1号議案 平成23年度事業報告及び収支決算について  
第2号議案 会計処理規程変更の適用延期に伴う平成24年度収支予算の組替について  
第3号議案 役員の補選について  
第4号議案 業務方法書の一部変更について  
第5号議案 第38回通常総会の招集及び付議事項について  
第6号議案 備蓄穀物の売渡価格の算定に関する細則の一部変更について  
第7号議案 平成24年度第2四半期飼料穀物備蓄実施計画について  
第8号議案 平成24年度第2四半期の備蓄穀物の貸付限度数量について  
第9号議案 役員退職手当支給規程の一部変更について  
第10号議案 会計処理規程の一部変更について

イ 第225回理事会 平成24年9月12日開催  
第1号議案 配合飼料異常補填交付金交付契約の変更について  
第2号議案 平成24年度第3四半期飼料穀物備蓄実施計画について  
第3号議案 平成24年度第3四半期の備蓄穀物の貸付限度数量について

- ウ 第226回理事会 平成24年10月10日開催  
 第1号議案 公益社団法人への移行認定申請書について  
 第2号議案 公益社団法人配合飼料供給安定機構定款について  
 第3号議案 公益社団法人への移行認定申請に係る平成25年度事業計画及び収支予算について  
 第4号議案 公益社団法人配合飼料供給安定機構に移行後最初の役員について  
 第5号議案 公益社団法人配合飼料供給安定機構役員報酬等の支給に関する基準について  
 第6号議案 臨時総会の収集及び付議事項について
- エ 第227回理事会 平成24年12月19日開催  
 第1号議案 平成24年度事業計画及び収支予算の変更について  
 第2号議案 定款の一部変更について  
 第3号議案 業務方法書の一部変更及び通常補填財源貸付事業に関する業務方法書の制定について  
 第4号議案 臨時総会の収集及び付議事項について  
 第5号議案 平成24年度第4四半期飼料穀物備蓄実施計画について  
 第6号議案 平成24年度第4四半期の備蓄穀物の貸付限度数量について
- オ 第228回理事会 平成25年1月29日開催  
 第1号議案 通常補填財源貸付事業貸付金の限度額について
- カ 第229回理事会 平成25年2月27日開催  
 第1号議案 飼料穀物備蓄対策事業実施要領の制定について  
 第2号議案 飼料穀物備蓄対策事業実施要領に係る実施細則の制定について  
 第3号議案 会計処理規程の一部変更について
- キ 第230回理事会 平成25年3月14日開催  
 第1号議案 平成24年度事業計画及び収支予算の変更について  
 第2号議案 平成25年度事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みについて  
 第3号議案 定款の一部変更について  
 第4号議案 業務方法書の一部変更及び通常補填財源貸付に係る業務方法書の制定について  
 第5号議案 業務方法書における社団法人の名称変更等に関する規程の制定について  
 第6号議案 理事の報酬総額及び監事の報酬総額について  
 第7号議案 臨時総会の招集及び付議事項について  
 第8号議案 通常補填財源貸付に係る長期借入金の限度額について

- 第9号議案 飼料穀物備蓄対策事業実施細則等の一部変更について
- 第10号議案 平成25年度第1四半期飼料穀物備蓄実施計画について
- 第11号議案 平成25年度第1四半期の備蓄穀物の貸付限度数量について
- 第12号議案 備蓄用飼料穀物の買入に係る長期借入金の限度額について
- 第13号議案 細則等における社団法人の名称変更等に関する規程の制定について
- 第14号議案 会計監査人の報酬について
- 第15号議案 常勤役員を選考規程及び募集要領について
- 第16号議案 外部役員及び会計監査人との賠償責任限定契約について

(3) 運営委員会

機構業務の円滑な運営及び推進を図るため、基金業務関係5回、備蓄業務関係5回、計10回の運営委員会を開催した。

#### 4. 監査

(1) 内部監査

平成24年度事業報告書、同収支決算書について、平成25年4月12日に、監事の監査を受けた。

(2) 外部監査

平成24年度事業報告書、同収支決算書について、平成25年4月15日～19日、公認会計士による監査を受けた。